

第38回

うつのみやこども賞だより

令和3年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『はじめての夏とキセキのたまご』

麻生 かつこ／作 (ポプラ社)



令和3年11月7日

～読んだ本の感想より～

- きょうりゅうを探するため、3人が協力して探検する場面や、きょうりゅうの知識をひろうする場面がおもしろかったです。
- 父親の転きんで、都会からいなかはどうしてしまいうつな世夏だったが、さいごの方にはきょうりゅうの化石もはくつして、友だちいっぱいできていいなと思った。
- 世夏がいろんなことをがまんしていることに気づいたお父さんが、世夏をきづかてくれてやさしいなと思った。
- 最後は世夏ちゃんも星原村が好きになってよかった。
- この本を読んだことで私も化石をとってみたいなと思いました。

『名物かき氷！復活大作戦』草香 恭子／作 (岩崎書店)

- 最初の方で、「おうぎやスペシャル」が出てきた時の言葉の表現の仕方が、とってもおいしそうだった。
- かき氷のことだけにこんなにいっしょうけんめいになるのがすごい。自分が一つのことにいっしょうけんめいになれないと思います。
- 俊が梅干しばあちゃんに弟子入りしてまで名物かき氷をふっかつさせたいという思いにおどろいたし、ぶじにお店を開店できてよかった。
- ぼくも扇屋スペシャルを食べてみたいなと思いました。
- 名物かき氷を食べるために頑張る姿が良いと思いました。

『時間色のリリィ』 朱川 湊人／著 (偕成社)

- リリィの不思議なシールをはられたらどうなるんだろうと思いました。
- 町の人たちがマンガにされてしまった時には、この後どうなるのか、すごくドキドキしました。
- 転校してってしまった友達にとても会いたくなるような本でした。
- ロミがミューちゃんとはなれてしまうのがかわいそうだったけど最後に二人をつなげられるそうちをつくっていつでもあえるような関係になってよかった。

『月にトンジル』 佐藤 まどか／作 (あかね書房)

- 初めにだいめいをよんだときはどうして、月とトンジルというぜんぜんかんけいのないことを書いているんだろうと思いました。二つとも「オモテ」と「ウラ」がある？のがおもしろかったです！
- それぞれのうらの顔を知るということは、怖いけれど、大切なことだと思いました。
- テツヨシがわかれるときに、形が変わっても、友だちは友だちという文章がとて心にくりおもしろかったです。
- だれにでもある表とうら。この本をよんで自分を大切にしたいと思った。